

血液浄化療法部

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	4 人	

2 教員の異動状況

加藤 明彦（病院教授）（2012 年 6 月 1 日～現職）

坂尾 幸俊（診療助教）（2011 年 4 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	5.29	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	20 編	(20 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	8 編	(8 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.97	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Akihiko Kato*, Takayuki Tsuji, Yukitoshi Sakao, Naro Ohashi, Hideo Yasuda, Taiki Fujimoto, Takako Takita, Mistuyoshi Furuhashi, Hiromichi Kumagai. A comparison of systemic inflammation-based

prognostic scores in patients on regular hemodialysis. Nephron Extra 3 (1): 91-100, 2013、【腎臓内科学】、[0.00]

2. Akihiko Kato. Muscle wasting is associated with reduced exercise capacity and advanced disease in patients with chronic heart failure. Future Cardiol 9 (6): 767-770, 2013、【腎臓内科学】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ohashi N, Tsuji N, Naito Y, Iwakura T, Isobe S, Ono M, Fujikura T, Tsuji T, Sakao Y, Yasuda H, Kawamura K, Sakaguchi T, Kato A, Fujigaki Y. Relationship between urinary fractional excretion of sodium and life prognosis in liver cirrhosis patients. Hepatol Res 43(11):1156-62、【腎臓内科学】、[2.07]

インパクトファクターの小計 [2.07]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Shioya M, Yoshida T, Kasai K, Furuya R, Kato A, Mori N, Matsumoto Y, Kumagai H. Inflammatory factors for hypoalbuminemia in Japanese peritoneal dialysis patients. Nephrology (Carlton) 18 (8): 539-544, 2013、【腎臓内科学】、[1.69]
2. Asuka Tanaka, Akihiko Kato, Yuza Suzuki, Masako Suzuki, Hiromitsu Ohmori, Ryo Sumimoto, Hideki Ohdan. Association of increased indoleamine 2,3-deoxygenase with impaired natural killer cell activity in hemodialysis patients. Ther Apher Dial 18 (1): 19-23, 2014、【腎臓内科学】、[1.53]

インパクトファクターの小計 [3.22]

（２－１）論文形式のプロシーディングズ

（２－２）レター

1. Akihiko Kato. Racial differences in secondary hyperparathyroidism, Nephrourol Mon 5 (4): 932, 2013、【腎臓内科学】、[0.00]

（３）総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤明彦：輸液薬・透析液・補充液・その他、栄養輸液薬、腎疾患治療薬マニュアル 2013-14、腎と透析 74 増刊号：862-865, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
2. 加藤明彦：食事療法がまるわかり！透析患者の栄養管理と食事指導、透析患者の栄養評価、透析ケア 夏季増刊：14-18, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
3. 加藤明彦：透析患者におけるサルコペニアの現状と対策、日本透析医会誌 28: 154-156, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
4. 加藤明彦：インタビュー サルコペニア予防の重要性、ほし No 003, p1-p4, 2013、【腎臓内科】、[0.00]

5. 加藤明彦: CKD ステージ G3 以降の診療と看護・生活支援、食事と運動療法、食事・生活指導、臨床透析 29 (6): 657-663, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
6. 加藤明彦: 透析患者の栄養障害と NST の可能性、今後の課題と NST に期待すること、臨床透析 29 (8): 1271-1278, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
7. 加藤明彦: 通院困難な要介護透析患者に未来はあるのか? 臨床透析 29 (9): 1303-1304, 2013
8. 加藤明彦: わが国における AKI 診療の現状と課題、AKI の疫学、臨床透析 29 (11): 1545-1551, 2013
9. 加藤明彦: 超入門! 運動療法のキホンを学ぼう、運動療法と栄養、透析ケア 19 (11): 1050-1054, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
10. 加藤明彦: 腎性貧血治療と鉄剤投与、鉄補充療法と ESA の使い方、臨床透析 29 (13): 1859-1866, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
11. 加藤明彦: 忘れがたい症例、友人 M 君が教えてくれること、臨床透析 30 (1): 127-128, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
12. 加藤明彦: 日常管理・適正透析にまつわる数字・計算、高齢者栄養リスク指標、透析ケア 20 (3): 259-261, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
13. 加藤明彦: 日常管理・適正透析にまつわる数字・計算、身体計測、透析ケア 20 (3): 261-265, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
14. 加藤明彦: 慢性腎臓病におけるサルコペニア、医学のあゆみ 248 (9): 727-231, 2014、【腎臓内科】、[0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 大橋 温、加藤明彦: 透析患者に対する薬の使い方—対処療法、しびれ、腎疾患治療薬マニュアル 2013-14、腎と透析 74 増刊号: 383-386, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
2. 辻 孝之、北島和登、加藤明彦: 透析患者の中枢神経系障害と対応、微量元素、ビタミン欠乏と中枢神経系障害、臨床透析 29 (10): 1485-1489, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
3. 辻 孝之、加藤明彦: 運動誘発性急性腎不全の画像診断、医薬ジャーナル 49 (11): 2503-2506, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
4. 安田日出夫、加藤明彦、藤垣嘉秀: 急性血液浄化療法離脱の現状と離脱基準におけるバイオマーカーの可能性、日本急性血液浄化学会雑誌 4 (2): 103-106, 2013、【腎臓内科】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 小田巻真理、加藤明彦: 食事療法がまるわかり! 透析患者の栄養管理と食事指導、筋力低下の防止、透析ケア 夏季増刊: 197-199, 2013、【腎臓内科】、[0.00]
2. 小田巻真理、加藤明彦: 透析患者の栄養障害と NST の可能性、透析患者のサルコペニアとは? 臨床透析 29 (8): 1181-1186, 2013、【腎臓内科】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 坂尾幸俊、加藤明彦：AKI/ARF の治療と予後、安田隆、平和伸仁、小山慶太編、臨床腎臓内科学、南山堂、東京都、pp. 21-25、2013 年、【腎臓内科】
2. 加藤明彦：透析患者における common disease の特徴、加藤明彦編、これだけはおさえて！透析患者の Common Disease、中外医学社、東京都、pp. 2-6、2013 年、【腎臓内科】
3. 加藤明彦：肺炎、加藤明彦編、これだけはおさえて！透析患者の Common Disease、中外医学社、東京都、pp. 37-46、2013 年、【腎臓内科】
4. 加藤明彦：やせ・肥満、加藤明彦編、これだけはおさえて！透析患者の Common Disease、中外医学社、東京都、pp. 157-166、2013 年、【腎臓内科】
5. 坂尾幸俊、藤垣嘉秀：維持血液透析患者に生じた副腎不全による高カルシウム血症、認定医専門医のための輸液電解質酸塩基平衡、pp184-pp185、中山書店、東京都、2013 年、【腎臓内科】

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 内藤善隆、加藤明彦：血液透析、インフォームドコンセントのための図説シリーズ 透析療法 改訂 3 版、大平整爾編、医薬ジャーナル社、東京都、pp. 46-47、2013 年、【腎臓内科】
2. 内藤善隆、加藤明彦：CAPD、インフォームドコンセントのための図説シリーズ 透析療法 改訂 3 版、大平整爾編、医薬ジャーナル社、東京都、pp. 48-51、2013 年、【腎臓内科】
3. 内藤善隆、加藤明彦：薬剤投与（薬の飲み方）、インフォームドコンセントのための図説シリーズ 透析療法 改訂 3 版、大平整爾編、医薬ジャーナル社、東京都、pp. 52-53、2013 年、【腎臓内科】

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Iwakura T, Fujigaki Y, Matsuyama T, Fujikura T, Ohashi N, Yasuda H, Kato A, Baba S. Tubulointerstitial nephritis and primary biliary cirrhosis with a T cell-dominant profile of infiltrating cells and granulomas in both organs. Intern Med 52 (4): 467-471, 2013、【腎臓内科学】、[0.97]
2. Iwakura T, Ohashi N, Tsuji N, Naito Y, Isobe S, Ono M, Fujikura T, Tsuji T, Sakao Y, Yasuda H, Kato A, Fujiyama T, Tokuta T, Fujigaki Y. Calcitriol-induced hypercalcemia in a patient with granulomatous mycosis fungoides and end-stage renal disease. World J Nephrol 2 (2): 44-48, 2013、【腎臓内科学】、[0.00]

インパクトファクターの小計

[0.97]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (10 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	4 件 (160 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 加藤明彦：基盤(C)、敗血症性急性腎障害におけるミトコンドリア由来関連分子パターンの役割の検討、2012年4月1日～2015年3月31日、研究分担者、10万円、代表者 浜松医科大学第一内科 安田日出夫

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	10 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	5 件
(3) 学会座長回数	0 件	7 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	1 件	8 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Akihiko Kato, Yukitoshi Sakao, Naoko Tsuji, Shinsuke Isobe, Masafumi Ono, Tomoyuki Fujikura, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Hideo Yasuda: Changes in abdominal fat and thigh muscle masses over 1 year after initiation of maintenance hemodialysis therapy. American Society of Nephrology Kidney Week 2013. 2013 年 11 月 8 日、アトランタ、米国
2. Masafumi Ono, Yukitoshi Sakao, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Hideo Yasuda, Yoshihide Fujigaki, Akihiko Kato: Pretreatment of saline loading ameliorates ischemic acute kidney injury (AKI), and reduces intrarenal upregulation of (pro)renin receptor in rats. American Society of Nephrology Kidney Week 2013. 2013 年 11 月 8 日、アトランタ、米国
3. Naro Ohashi, Takayuki Tsuji, Akihiko Kato, Yoshihide Fujigaki: Alogliptin improves steroid diabetes by decrease of plasma glucagon levels in chronic kidney disease caused by immunological abnormalities. American Society of Nephrology Kidney Week 2013. 2013 年 11 月 8 日、アトランタ、米国
4. Naoko Tsuji, Hideo Yasuda, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Akihiko Kato, Yoshihide Fujigaki: Clinical Acquired resistance to cisplatin-induced acute kidney injury in cancer patients. American Society of Nephrology Kidney Week 2013. 2013 年 11 月 8 日、アトランタ、米国

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 加藤明彦：腎臓病と栄養・代謝・食事フォーラム 2014、2014 年 3 月 29 日、東京都

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 加藤明彦：透析患者の栄養管理～栄養サポートと運動療法の重要性～、第 138 回北九州透析懇話会、2013 年 5 月 16 日、北九州市
2. 加藤明彦：透析患者の栄養管理・サプリメントについて、第 20 回知多透析カンファレンス 学術講演会、2013 年 7 月 11 日、愛知県知多郡東浦町
3. 加藤明彦：透析患者の運動療法と栄養管理、第 3 回香里 腎と透析 病診連携セミナー、2013 年 7 月 18 日、大阪府寝屋川市
4. 加藤明彦：慢性腎不全に対する分岐鎖アミノ酸療法—サルコペニアを中心に、山形県栄養士会医療学術部研修会、2013 年 8 月 31 日、山形市
5. 加藤明彦：透析患者のサルコペニアに対する栄養・運動療法、第 7 回最上地区透析療法協議会、2013 年 11 月 21 日、山形県新庄市
6. 加藤明彦：透析患者のサルコペニアに対する栄養・運動療法、第 25 回四国会研究会、2014 年 1 月 25 日、名古屋市
7. 加藤明彦：透析患者におけるサルコペニア対策、第 36 回関西透析医学セミナー、2014 年 2 月 1 日、大阪市
8. 加藤明彦：アミノ酸代謝からみた腎不全患者の栄養療法、岐阜県栄養代謝セミナー、2014 年 3

月 7 日、岐阜市

9. 加藤明彦：透析患者の運動器障害対策、第 5 回西三河透析研鑽会、2014 年 3 月 20 日、名古屋市

10. 加藤明彦：教育講演、治るため・生きるための運動・栄養療法、日本医工学治療学会第 30 回学術大会、2014 年 3 月 23 日、名古屋市

3) シンポジウム発表

1. 加藤明彦：透析患者の栄養管理、日本医工学治療学会第 29 回学術大会、2013 年 4 月 21 日、横浜市

2. 加藤明彦：透析患者の低栄養と悪液質（sarcopenia も含んで）第 58 回日本透析医学会学術集会・総会、2013 年 6 月 22 日、福岡市

3. 加藤明彦：透析患者のロコモティブシンドロームーサルコペニアと運動・栄養療法―、日本透析医学会研修セミナー、透析医療における Current Topics 2013、2013 年 10 月 20 日、大阪市

4. 加藤明彦：透析患者の栄養、第 4 回血液透析技能セミナー、2014 年 2 月 2 日、東京都

5. 加藤明彦：透析運動療法を展開するための方法論、栄養学的サポート、第 4 回透析運動療法研究会、2014 年 2 月 16 日、東京都

4) 座長をした学会名

1. 加藤明彦：教育セミナー「血液透析患者における動脈硬化 基礎から臨床」、日本医工学治療学会第 29 回学術大会、2013 年 4 月 21 日、横浜市

2. 加藤明彦：一般演題「血液透析・臨床検討 5（基礎検討）」、日本医工学治療学会第 29 回学術大会、2013 年 4 月 21 日、横浜市

3. 加藤明彦：よくわかるシリーズ「栄養管理」、第 58 回日本透析医学会学術集会・総会、2013 年 6 月 21 日、福岡市

4. 加藤明彦：一般演題「栄養と透析-I」、第 58 回日本透析医学会学術集会・総会、2013 年 6 月 21 日、福岡市

5. 加藤明彦：シンポジウム「水・電解質の基礎知識」、第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会、2013 年 1 月 12 日、京都市

6. 加藤明彦：一般演題 46、第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会、2014 年 2 月 27 日、横浜市

7. 加藤明彦：シンポジウム「治す活力・生きる活力を引き出す運動・栄養療法」、日本医工学治療学会第 30 回学術大会、2014 年 3 月 23 日、名古屋市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 加藤明彦：日本内科学会 総合内科専門医（1977）、東海地方会評議員

2. 加藤明彦：日本腎臓学会 専門医（93037）、指導医（1297）、評議員

3. 加藤明彦：日本透析医学会 専門医（1782）、指導医（850）、評議員

4. 加藤明彦：日本病態栄養学会 病態栄養専門医、代議員

5. 加藤明彦：日本静脈経腸栄養学会 認定医、評議員

6. 加藤明彦：アメリカ腎臓学会 フェロー（FASN）（310）

7. 加藤明彦：日本医工学治療学会 評議員

8. 加藤明彦：日本急性血液浄化療法学会 評議員
9. 加藤明彦：日本臨床薬理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	4 件	0 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

1. 加藤明彦：臨床透析（日本メディカルセンター） 編集委員 インパクトファクター無
2. 加藤明彦：Nutrition Care（メディカ出版） 編集同人 インパクトファクター無
3. 加藤明彦：透析ケア（メディカ出版） 編集同人、インパクトファクター無
4. 加藤明彦：日本病態栄養学会誌 編集委員、インパクトファクター無

（2）外国の学術雑誌の編集

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

1. 加藤明彦：8 回、Clinical Experimental Nephrology（日本）
2. 加藤明彦：3 回、Clinical Experimental Nephrology Case Reports（日本）
3. 加藤明彦：2 回、BMC Nephrology（英国）
4. 加藤明彦：2 回、Therapeutic Apheresis Dialysis（米国）
5. 加藤明彦：1 回、Nephrology Dialysis Transplantation（イタリア）
6. 加藤明彦：1 回、Atherosclerosis（スウェーデン）
7. 加藤明彦：1 回、American Journal of Hypertension（米国）
8. 加藤明彦：1 回、PLos One（米国）
9. 加藤明彦：1 回、Hemodialysis International（米国）
10. 加藤明彦：1 回、International Journal of Clinical Pharmacology Therapy（ドイツ）
11. 加藤明彦：1 回、Journal of Biosimilars（英国）
12. 加藤明彦：1 回、Vascular Health and Risk Management（英国）
13. 加藤明彦：1 回、European Journal of Clinical Nutrition（英国）
14. 加藤明彦：1 回、Clinical Interventions in Aging（英国）
15. 加藤明彦：1 回、Tohoku Journal of Experimental Medicine（日本）

9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	6 件
（3）学内共同研究	2 件

（1）国際共同研究

（2）国内共同研究

加藤明彦：透析患者の動脈硬化病変、筋肉量に関する研究、丸山病院、資料の交換

加藤明彦：透析患者における筋肉減少に関する研究、浜松大学健康プロデュース学部、資料の

交換

加藤明彦：透析患者における栄養指標に関する検討、静岡県立大学臨床栄養学、資料の交換

加藤明彦：食事中的リン含有量に関する検討、金城学院大学、資料の交換

加藤明彦：透析患者における NK 活性に関する検討、国立病院機構柳井医療センター 資料の交換

加藤明彦：CKD-5D 研究 資料の交換

(3) 学内共同研究

加藤明彦：急性腎不全の発症・成立機序に関する研究、第一内科、資料の交換

加藤明彦：がん化学療法時における体構成成分の変化の検討、栄養部、資料交換

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 血液透析患者における内臓脂肪および大腿部筋肉量に関する研究

血液透析患者の腹部内臓脂肪、腹部皮下脂肪および大腿筋肉面積を単純 CT から測定し、動脈硬化性変化との関連を横断的に調査した。男性患者では、筋肉量の減少は脈波伝播速度と、女性では上腕・足首血圧比と相関することを明らかにした (J Cachexia Sarcopenia Muscle, *in press*) (加藤明彦)。

2. 血液透析患者における筋肉代謝の調整因子の検討

血液透析患者の筋肉の代謝に関連する因子を血清学的に検討したが、血清ミオスタチンは筋肉量とむしろ逆相関したことより、測定法を含めた再検討を行った (加藤明彦)。

3. 虚血性急性腎不全における (プロ) レニン受容体発現に関する研究

ラット虚血性急性腎不全において、腎組織内の (プロ) レニン受容体は増加し、その下流シグナルのリン酸化 ERK の増加が虚血性急性腎不全に主に関与することを明らかにした (Clin Exp Nephrol, *in press*) (小野雅史、加藤明彦)。

4. 血液透析患者における重炭酸濃度と骨折の関連性に関する研究

MBD-5D 研究に参加し、血液透析患者における新規骨折発症と透析前の血清重炭酸濃度との関連を検討したところ、両者には U カーブの関連があり、血清重炭酸濃度が 20mEq/L 未満、または 22mEq/L 以上になると、新規骨折の頻度が増加することを明らかにした (加藤明彦)

5. 日本の血液透析患者における体格指数が生命予後に及ぼす影響に関する研究

2008 年末の日本の血液透析患者の体格指数を用いて、1 年後の生命予後に関する検討を行った (日本透析医学会公募研究)。るい瘦があっても筋肉量が多ければ死亡のリスクにはならず、筋肉量が少

ない肥満では心血管死のリスクが上昇することを明らかにした。(坂尾幸俊、加藤明彦)

6. 血液透析患者における活性型、非活性型グレリン血漿レベルの検討

胃で産生されるホルモンのグレリンは、食欲増進、抗炎症作用、心血管保護等多彩な効果を持つが、透析患者における意義は定まっていない。血液透析患者における血漿活性型グレリン(acyl-ghrelin, AG)及び非活性型グレリン(desacyl-ghrelin, DG)に対する関連因子を検討した結果、AG/DG 比は透析期間、体格指数、血清アルブミン値と関連する傾向があることを明らかにした。(坂尾幸俊、加藤明彦)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 透析患者のサルコペニアに注目し、その成立機序や臨床的意義を研究している。今年度も国内学会のシンポジウムや国際学会で発表しており、論文や総説を発表する機会を得ている。
2. 急性腎障害（AKI）の成立機序におけるレニン・アンジオテンシン系（RAS）に注目し、腎組織内の RAS 亢進が AKI の成立に関与することを明らかにした。来年度は、AKI における筋萎縮に注目し、筋肉内 RAS について評価する予定である。さらに、AKI に対するエリスロポエチン治療により、筋代謝が影響されるかについても評価する予定である。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 加藤明彦：サルコペニア肥満、静岡新聞びぶれ、Vol. 511, p12, 2013 年 10 月 3 日号